


DX宣言書

2022年9月16日

株式会社 みずほ銀行

住所	東京都目黒区中目黒2-6-20 京急建設イマビル6階
氏名	古川計装株式会社 代表取締役社長 坪山進二



当社は、以下の内容にて、DXへの取組を推進して参ります。

○各ゴールに関連する取組内容

ビジョン（5～10年後の目指すべき姿）

「会社の技術を現場（個人）へ、現場（個人）の技術を会社へ」
DX推進による技術の水平展開を可能とすることで、幅広くお客様に対応し、広く社会に貢献する企業を目指す。

経営課題（ビジョン実現に向け、今後3年間に於ける課題認識や取り組まなければならないこと）

ビルオートメーションスキルを身に付けるには、とても長い時間を要するのが現状であり、個人スキルにも偏りがみられ、会社全体的にも品質の偏りが発生している。
高いスキルの人材に限りがあるため、人員増加に伴う若手教育に手が回らず仕事量の広がりによりブレキが掛かっている。
これから取り組まなければならないのは、技術を収集し、水平展開を可能とするシステムを構築し、より多くの部員に技術を広めていく。

DX戦略（活用するIT・デジタル技術や具体的な解決イメージ）

短期・中期的 (1～3年後)	エンジニアリング部を中心に技術、ノウハウの一元管理、関係者に対し共有を行うため、3点に取り組む。 ・DXプロジェクトチームを設立する。 ・顧客情報、建物情報、技術情報のスキルを収集し、データベース化する。 ・データベースの活用について →案件毎の特徴（顧客仕様/ビルの特徴/システム・制御内容）を整理し、キーワード検索により必要な時に必要な情報が取り出せるようにするため、テキストマイニングツール等のシステム導入を検討し、若手が瞬時に疑問点を解決出来るようにする。当該システムの活用により、新規案件の取り組み方法について似た事例の検索がスムーズに行え、先輩社員からのアドバイスをもらう手間が省ける。それにより、他の優先度の高い業務への取り組みが可能となり、1人あたりの生産性向上による案件受注数の増加と若手の成長促進が見込める。
【任意項目】 その他 (対応期限を定めない 挑戦したい取組み等)	